

令 6 日ス振登第 7 1 号
令和 6 年 1 1 月 7 日

関 係 各 位

独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立登山研修所長 米 山 隆

令和 6 年度積雪期登山基礎講習会の開催について（依頼）

日頃から当研修所の各種事業に御理解・御協力を賜りありがとうございます。
このたび、標記講習会を別紙要項のとおり開催することになりました。
つきましては、関係各位への周知とその参加について、格別の御配慮を賜りますようお願いいたします。

なお、開催要項等は当所ホームページからダウンロードできますので、併せて関係者に御連絡いただくとともに御周知にお役立てください。

なお、開催要項等は当研修所ウェブサイトからダウンロードが可能となっていますので、あわせて関係者に御案内くださいますようお願いいたします。

(<https://www.jpnsport.go.jp/tozanken/syusai/tabid/167/Default.aspx>)

【本件担当】

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂 6
独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所
電話 : 076-482-1211 FAX : 076-481-1534
E-mail : tozanken-info@jpnsport.go.jp
担当 : 専門職 黒川和英、沓掛栄一郎、朽見太朗

令和6年度 積雪期登山基礎講習会開催要項

1 目的

「雪に親しむ」をコンセプトに、気象学と雪氷学の観点から雪について学び、雪上での歩行技術や生活技術、危急時対策を中心に積雪期登山に必要な基礎の習得を目指す。

2 主催

独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所

3 共催

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(予定)

公益財団法人全国高等学校体育連盟(予定)

4 後援

スポーツ庁(予定)

5 期間

令和7年1月31日(金)～2月2日(日)の3日間

6 場所

独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所及び周辺山域

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂6

電話:076-482-1211 E-mail:tozanken-info@jpnssport.go.jp

7 参加対象・募集人員

(1) 参加対象

所属団体の所属長等(教育長、大学長、学校長、会長等)が推薦する以下の者

ア 高等学校・高等専門学校の山岳部等で指導する教職員等

イ 小学校・中学校等の野外活動を担当する教職員

ウ 大学の登山活動を行うクラブやサークル等で指導する監督、コーチ、顧問等

エ 都道府県・市区町村の野外活動担当者及び地域・職域における登山の指導者

オ 都道府県山岳連盟(協会)等で指導的立場にある者

カ 登山ショップの店員、登山教室等の企画や指導に関わる者

キ 大学の登山活動を行うクラブやサークル等で活動している者

ク 山岳遭難救助組織に所属する者

(2) 募集人員

25名

8 講習会の日程及び内容

日程	内容	研修場所
1月31日(金)	受付7:30～ 開講式、講義、班別研修、班別協議	国立登山研修所及び周辺山域
2月1日(土)	入山 総合研修、班別研修、研究協議	国立登山研修所及び周辺山域
2月2日(日)	総合研修、班別協議、下山 閉講式 解散15:30頃	国立登山研修所及び周辺山域

※ 詳細な日程及び内容は、別添1(国立登山研修所ウェブサイトにも掲載)をご参照ください。

(<https://www.jpnssport.go.jp/tozanken/syusai/tabid/167/Default.aspx>)



9 個人装備

別添2(国立登山研修所ウェブサイトにも掲載)を参考にしてください。

10 参加申込方法

- (1) 所属団体の所属長等(教育長、大学長、学校長、会長等)が、参加希望者を推薦して、お申し込みください。
- (2) 国立登山研修所のウェブサイトに掲載のお申込フォーム(※令和6年12月9日(月)掲載予定)にアクセスし、推薦者の事務担当部署ご担当者様が入力・ファイルをアップロードしてお申し込みください。
- (3) 「参加申込者個人票」(別添3・国立登山研修所ウェブサイトにも掲載)をご参照の上、事前に参加希望者に入力いただいた上で、お取りまとめの上お申し込みください。
- (4) 申込期間:令和6年12月9日(月)～令和6年12月20日(金)

11 参加者の決定

- (1) 国立登山研修所において、参加申込内容をもとに選考の上、参加者を決定します。
- (2) 参加可否については、推薦者(所属長等)宛てに電子メールにて、**令和7年1月中旬**を目途に通知します。
- (3) 参加承認者には、健康診断書(当所指定の様式に限り、)の提出、傷害保険申込等に関して事務連絡を行います。

※ 健康診断書の提出に必要な経費は、参加者の負担となります。

※ 天候や感染症の拡大等により研修会を中止した場合でも、主催者側では負担いたしません。

12 参加費用

内訳	金額
(1) 国立登山研修所における施設利用料(前泊含む全日程分)	2,000円
(2) 国立登山研修所における食費 (※1日目夕食:1,300円×1、2日目朝食:700円×1、1日目・3日目昼食:800円×2)	3,600円
(3) 傷害保険料 (※公務災害等に対応される方は、保険申込の必要はありません。)	3,000円又は4,000円 ※参加者で選択
(4) 諸費用(資料代ほか)	1,100円
(5) 幕営講習中の食費等 (※2日目夕食、3日目朝食は、国立登山研修所でインスタント食品等を用意します。)	3,000円

※ 参加費用は受付時に集金します。(現金に限り、)なお、金額は変更する場合があります。

※ 2日目の昼食はありません。行動食等を参加者で準備してください。

13 参加申込の取消しについて

参加申込後、何らかの理由によりやむを得ず申込を取り消す場合は、必ず推薦者(事務担当部署)から国立登山研修所に、申込取消しの理由等を連絡してください。

※ 参加希望者本人から直接国立登山研修所への申込取消しの連絡は受け付けません。

14 その他

- ・ 報道機関の取材・撮影が入る場合があります。
- ・ 参加者本人による写真・動画の撮影は禁止となります。後日国立登山研修所から参加者本人宛てに、写真・動画を共有します。なお、写真・動画の Web・SNS 等への掲載・投稿をはじめとした二次利用は禁止となり、参加者の所属団体内部に限り、報告書の作成や情報共有としてお使いいただくことができます。
- ・ 主催者及び講師が撮影・録画した静止画・動画を、主催者又は講師が広報活動、報告書等に使用・公開する場合があります。
- ・ 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症拡大防止のため、研修会を中止する場合があります。

令和6年度 積雪期登山基礎講習会 日程表(予定)

別添1

1月31日(金)		2月1日(土)		2月2日(日)	
プログラム		プログラム		プログラム	
講習予定場所等		講習予定場所等		講習予定場所等	
6		起床 清掃 朝食		起床 朝食	6
7		玄関前集合・出発準備 入山		班別講習(入山講習) 周辺山域(大品山方面)	7
8	受付 (本部打合せ) 事務室前	班別講習(入山講習) 周辺山域(大品山方面) ・歩行訓練 ・ナビゲーション技術 ・積雪観測 ・雪崩サーチ&レスキュー ・幕営、生活技術、ビバーク ・搬送 等		・歩行訓練 ・ナビゲーション技術 ・積雪観測 ・雪崩サーチ&レスキュー ・幕営、生活技術、ビバーク ・搬送 等	8
9	開講式 写真撮影・オリエンテーション (講師ミーティング) 講義室				9
10	講習会の実施にあたって 講義室 担当:渡邊 雄二				10
11	講義 「冬山の気象」 「積雪と雪崩」 講義室 担当:飯田肇	積雪のある周辺山域へ入山 して実技講習・幕営を行います。 (※荒天の場合は、研修所敷 地内において、各自のビバーク サイトを構築し、状況に応じ てビバーク訓練を実施しま す。)			11
12	班別講習 顔合わせ・装備点検 昼食(各班弁当を配布)			下山・研修所集合 装備の点検・整理・返納	12
13		※シュラフ・ツェルト・マット・ その他防寒具、ストーブ・クッ カー・食器などは各自で用意 してください。		昼食(各班弁当) 入浴	13
14	全体講習 積雪調査講習 周辺山域 担当:飯田肇	※1日夕食・2日朝食の食材 は、登山研修所で準備します (アルファ化米・レトルト等簡 単なもの)足りない方や、2月 1日の昼食は、各自で行動食 などを用意してください。		班別協議 登山行動の 評価(Check)と改善(Act) 講習の振り返り・まとめ 諸連絡・清掃など 講義室 (講師ミーティング 14:00～)	14
15	班別研修 講義室等	※燃料(ガスカートリッジ)は 登山研修所で販売できます。		閉講式 講義室	15
16	・登山のプランニング ・ルート・計画 ・エスケープルート、サブプラン ・リスクマネジメント	※その他不明な点は、登山研 修所へお問合せください。			16
17	入浴・夕食 (講師ミーティング 17:20～)	幕営・ビバークサイトの構築 夕食 ・自炊 ・雪上生活技術 ・講習第2日目の確認 ・翌日の講習内容の確認 (講師ミーティング 18:30～)			17
18					18
19	班別講習 (随時問診)				19
20	・装備の点検 ・入山準備	就寝 幕営・ビバーク			20
21	就寝 消灯22:00				21

令和6年度 積雪期登山基礎講習会 個人装備表

(1s=1セット)

✓	品名	数	備考	✓	品名	数	備考
衣類				生活用具			
	アウタージャケット	1	防水透湿素材		シュラフ	1	-6℃の環境下で使用できるもの
	アウターパンツ	1	防水透湿素材		シュラフカバー	1	防水透湿素材
	ミッドレイヤー上下	適	フリース等・各自必要なものを携行		個人用マット	1s	
	ベースレイヤー上下	2s	化繊又はウール素材・予備含む		クッカー	1s	個人用
	防寒着	1	ダウンジャケット等		ライター	1	電子ライター不可
	下着	1	化繊又はウール素材		※ガスストーブ・ガス缶は研修所で用意します。		
	インナーグローブ	2s	化繊又はウール素材の薄手		食器・箸・スプーン等	1s	
	ウールグローブ	2s	ウール素材の厚手		タオル	1	
	オーバークラブ	1	防水透湿素材		ぞうきん	1	セームタオル可、テント内で使用
	※上記グローブは例示。低温(−5℃程度)・湿雪による濡れに耐え得るグローブを、予備も含め準備すること。				スタッフバッグ	適	
					ゴミ袋、レジ袋等	適	パッキング等に使用、厚めの袋
	靴下	2s	登山用の厚めの靴下		ツェルト	1	個人用
	ニット帽	1			その他		
	バラクラバ	1	(目出し帽)		スリング(120cm)	2	
	ロングゲイター	1s	(ロングスパッツ)		スリング(60cm)	2	
	サングラス	1	UVカット、ケース付		カラビナ	3	安全環付きカラビナ含む。
	ゴーグル	1	UVカット、ケース付		ヘッドライト	1	照射距離30m以上のもの・新品電池を充填
	行動用具				小型ナイフ	1	紐を付ける等ラッキングできるように準備
	ピッケル	1			ホイッスル	1	紐付きのもの
	アイゼン	1s	10本爪以上		腕時計	1	
	ワカン	1s			トイレットペーパー	適	
	バックパック	1	40～50ℓ程度(ザック)		携帯トイレ	適	
	登山靴	1s	※下記参照		テーピングテープ	1	38mm又は50mm幅のもの
	トレッキングポール	1s	スノーバスキットのついたもの		日焼け止め	1	
	水筒	適	1ℓ以上		リップクリーム	1	
	保温用ボトル	適	500ml以上		常備薬	適	
	地形図(1/25000)	1	「小見」※所有している方は持参		予備電池	2s	ヘッドライト・雪崩ビーコン用
	コンパス	1	プレート付、落下防止ひも		細引き	1	3mm×5m
	雪崩対策				筆記用具	適	小型メモ、ペン
	雪崩ビーコン	1	アンテナ3本以上		食糧関係		
	プローブ	1	2.4m以上		行動食	適	2日分程度
	シャベル	1			非常時対策関係		
	スノースタディキット	1	所有している方は持参※		携帯電話	1	
					予備バッテリー	適	充電ケーブル等含む。

※登山靴は冬期の使用に耐え得るもので、低温(−5℃程度)・湿雪による濡れに対応できるように、手入れしたものを用意してください。

※上記の装備は必要装備のため、準備をお願いします。

その他必要品

✓	品名	数	備考	✓	品名	数	備考
	室内着	1s	所内研修で着用(ジャージ等)		筆記用具	適	ノート、ペン等
	館内上履き	1	スリッパ等		健康保険証等	1	
	マスク	適			生活用品	適	歯ブラシ、タオル、携帯電話充電器等 ※シャンプー、ボディソープは浴室に備え付けてあります
	着替え	適	所内研修中の着替え				

※北陸地方は積雪が多く、国立登山研修所周辺は気温が−5℃近くまで下がる、気象条件の厳しい場所です。屋外での講習中の寒さや、雪による濡れに対応できるようなウェア、登山靴等を準備してください。

**令和6年度 積雪期登山基礎講習会
参加申込者個人票**

ふりがな	姓		名		性別	
参加申込者氏名						
参加申込者生年月日	年 月		日生まれ	歳(令和6年12月1日現在)		
参加申込者現住所	〒 -					
参加申込者E-mail	@			電話番号	- -	
緊急連絡先氏名	姓		名		続柄	
緊急連絡先住所	〒 -					
緊急連絡先電話番号	- -					
所属団体名				所属部署名		
所属長氏名	姓		名		所属長部署・役職	
所属団体住所	〒 -					
所属団体電話番号	- -					
所属校住所 ※所属団体住所と異なる場合	〒 -					
所属校電話番号	- -					
所属校学校長名 ※所属長氏名と異なる場合	姓		名		ご自身の所属年数 (所属校)	年

※所属校住所等は、教職員の方のみ入力してください。

●国立登山研修所主催の研修会・セミナーの参加歴があれば入力してください。

開催年月日	研修会・セミナーの名称
R5.8.20	【入力例】令和5年度登山リーダー夏山研修会
R5.11.30	【入力例】令和5年度安全登山サテライトセミナー(オンライン)

※教職員の方は、山岳関係以外の部活動についても入力してください。

●主な部活動(山岳会、クラブ)指導歴を入力してください。

開始年月	終了年月	指導歴	役職	部員数
R5.4	R6.3	【入力例】富山県立劔高等学校陸上部	顧問	100名
R6.4	現在	【入力例】富山県立劔高等学校山岳部	顧問	20名

※教職員の方は、山岳関係以外の部活動についても入力してください。

●現在指導している部活動の指導体制(※教職員の方のみ入力してください。)

顧問	名	副顧問	名	その他	名	合計	名
----	---	-----	---	-----	---	----	---

●あなたがこの研修会に参加する目的について入力してください。

●講習会で特に学びたい内容について入力してください。【例】冬山の気象、テント設営時の注意点

●講習会で意見交換したい内容について入力してください。【例】所属団体内での指導方法、積雪期登山の情報収集の方法

●直近3年間の山行経験について入力してください。

山行日数	無雪期		日	合計		日	幕営日数	無雪期		日	合計		日
	積雪期		日					積雪期		日			

●積雪期の主な山行歴を入力してください。（※積雪期の山行歴が無い場合は無雪期の山行歴を入力してください。）

年月	日程	行程 ※2,000m以上の場所は赤字にしてください。	パーティ の人数	役割	山行形態	1日当たりの 平均行動時間
R6.2	2泊3日	【入力例】 1日目：道の駅みとみ→雁坂小屋(テント泊) 2日目：雁坂小屋→雁坂嶺→破風山避難小屋→ 甲武信小屋(テント泊) 3日目：甲武信小屋→甲武信ヶ岳→徳ちゃん新 道→道の駅みとみ	6名	リーダー	テント泊縦走	10時間

●国立登山研修所発行テキストの所有状況

安全で楽しい登山を目指して～高等学校登山指導者用テキスト～		新・高みへのステップ第3部	
-------------------------------	--	---------------	--

■山行経験・体力の確認

- 1年間あたりの登山の頻度 回
- 背負って確実に歩けるザックの重量 kg
- 山行時の1日当たりの平均行動時間 時間
- 軽装時のコースタイム短縮率(例:ガイドブックで10時間のところ7時間→70%) %
- 体力の自己評価(5:自信がある、4:やや自信がある、3:普通、2:やや自信がない、1:自信がない)
- 1週間あたりの登山「以外」の運動・スポーツの頻度 回
- 登山以外の運動・スポーツの内容(例:ランニング、スポーツジムで筋トレ) ()
- その他特記事項があれば入力してください。
()

■健康状態の確認

- 身長 cm 体重 kg 平熱 °C 血圧:最高/最低 / mmhg
- 疲れやすいですか?
- 睡眠不足ですか?
- 普段、朝食は食べますか?
- 山行中に膝は痛くなりますか?
- 重たい荷物を背負うと息が切れますか?
- バランスを崩したとき、リカバリーできずよく転倒しますか?
- 泊まりの山行中に熟睡できますか?
- 日常生活や山行中における健康上のトラブル・不具合等があれば入力してください。
()

■既往症等の確認

- アレルギーはありますか? ある場合具体的に()
- タバコは吸いますか? 吸う場合1日に 本
- 飲酒しますか? 飲む場合1週間に 回
- ハチに刺されたことがありますか? ある場合具体的に()
- その他既往症がありますか? ある場合具体的に()
- 現在服用している薬はありますか? ある場合具体的に()
- 凍傷になったことはありますか? ある場合部位・程度 ()
- その他特記事項があれば入力してください。
()

■参加確認

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所(以下「国立登山研修所」といいます。)は、登山の健全な発展を図るため、登山指導者養成のための研修を行うことを目的として設置されています。

本講習会「令和6年度積雪期登山基礎講習会」では、「雪に親しむ」をコンセプトに、気象学と雪氷学の観点から雪について学び、雪上での歩行技術や生活技術、危急時対策を中心に積雪期登山に必要な基礎の習得を目指します。

実技講習には国立登山研修所敷地内及び周辺山域の雪上における基礎技術講習や幕営講習も含まれます。あらためて、登山は危険を内包した自然の中で行われるスポーツであることを十分に認識した上でご参加ください。

また、国立登山研修所及び実技講師は、安全管理上の指導もしますので、その指示を踏まえ安全に講習会が運営されるよう御協力ください。

国立登山研修所としては、講習会における安全対策には万全を期してまいりますが、登山は自然の中で行う活動であるため、それでも万が一、事故が発生した場合には応急処置を施し、必要に応じて、最寄りの病院へ搬送いたします。

その際、国立登山研修所職員が随行または病院に待機するとともに、ご本人の緊急連絡先に連絡いたします。

また、傷害保険につきましても、国立登山研修所がご紹介しますので、必ず加入してください。

本講習会参加後、所属団体内での伝達講習を実施してください。後日、伝達講習の実施状況について追跡調査(アンケート等)を行う場合がありますので、ご協力をお願いします。



上記の事項について了承の上、参加を申し込みます。